
市川町景気動向調査

2020年10-12月期

市川町商工会

目 次

<u>I. 調査要領</u>	1
<u>1. 調査目的</u>	1
<u>2. 全国および兵庫県の経済動向調査</u>	1
<u>3. 管内調査</u>	1
<u>II. 全国および兵庫県の経済動向</u>	2
<u>III. 管内調査結果</u>	3
<u>1. 売上高の状況</u>	3
<u>2. 採算（経常利益）の状況</u>	5
<u>3. 資金繰りの状況</u>	7
<u>4. 人材の状況</u>	10
<u>5. 業況の状況</u>	14
<u>6. 設備投資の実施状況</u>	16
<u>7. 最も優先すべき経営上の課題</u>	18

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

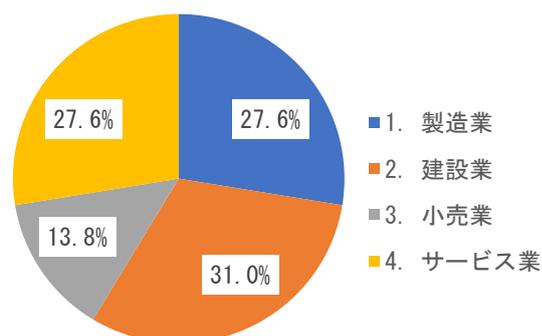
3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…29企業

〈内訳〉

製造業	8社
建設業	9社
小売業	4社
サービス業	8社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2020年10月から12月の第3四半期を対象とした。

※指標について

本報告書のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 全国および兵庫県の経済動向

景気総合指数

全国および兵庫県の先行指数は、2 カ月連続前月を上回った。

	指数名	R2. 8	R2. 9	R2. 10
兵庫県	先行	84.2	94.2	94.5
	一致	70.0	71.2	71.1
	遅行	90.7	86.5	86.4
全国	先行	89.1	93.3	94.3
	一致	82.4	84.8	89.4
	遅行	91.5	91.7	91.2

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化傾向が続いているものの、前期からは改善している。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（%）

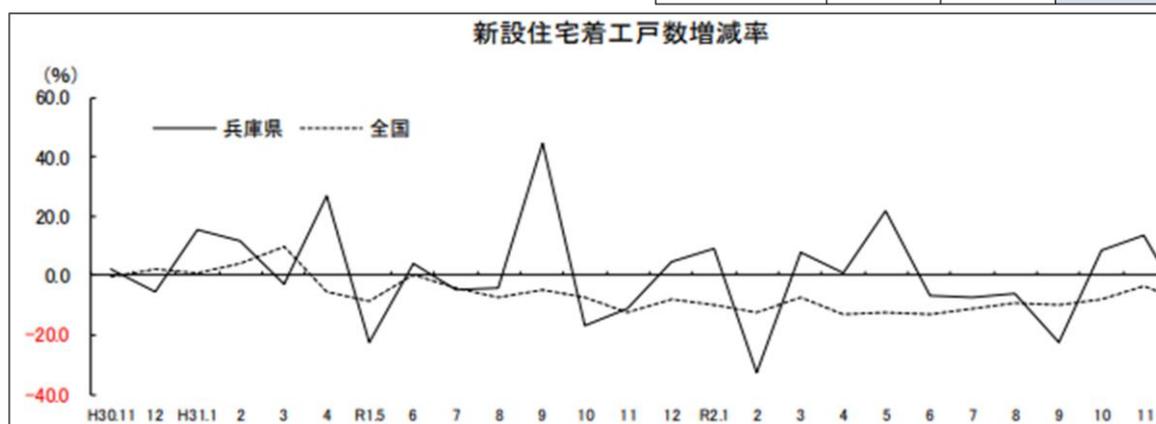
	R2. 4-6	R2. 7-9	R2. 10-12
全産業	▲66.9	▲37.7	▲22.6
製造業	▲75.7	▲52.6	▲29.4
非製造業	▲63.5	▲31.5	▲20.6

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数は、9 月は前年同月を下回ったものの、10 月 11 月は前年を上回った。

	R2. 9	R2. 10	R2. 11
戸数	2,502	2,464	2,850
前年度比 (%)	▲22.5	8.4	13.4



出所：国土交通省

有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R2.12）は 1.27 倍、兵庫県では 1.01 倍となった。

	R2. 12		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.27	1.01	1.06
新規求人数	3,313	26,969	887,713
前年度比 (%)	▲8.8	▲13.9	▲18.6

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

倒産件数

兵庫県の企業倒産件数は、1 か月あたり 30～40 件となり、いずれの月も前年同月より下回った。全国でも、前年同月より 2 割程度下回っている。

		R2. 10	R2. 11	R2. 12
兵庫県	件数	34	40	30
	前年度比 (%)	▲17.1	▲7.0	▲37.5
全国	件数	624	569	558
	前年度比 (%)	▲20.0	▲21.7	▲20.7

出所：(株)東京商工リサーチ

Ⅲ. 管内調査結果

1. 売上高の状況

(1) 売上高DI

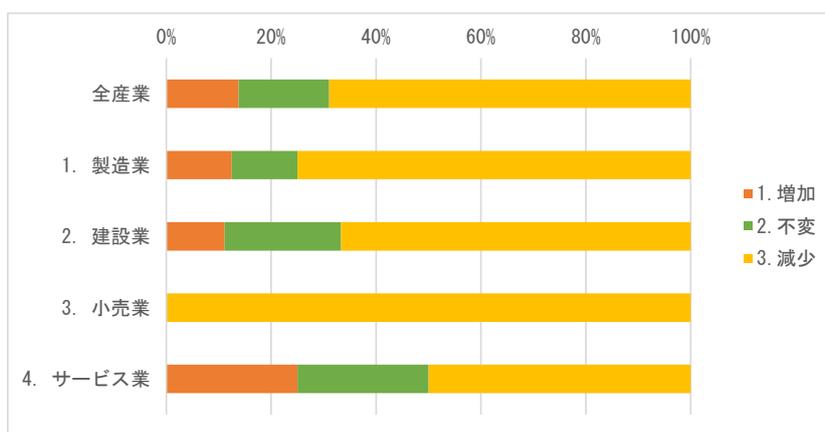
今期の全産業売上高DIは▲55.2と、前期の▲43.3より悪化した。業種別に見ると、製造業では改善しているが、建設業と小売業では悪化している。小売業では、全事業所が売上高が減少したと回答した。

兵庫県や全国と比較すると、サービス業以外は市川町の方がマイナス幅が大きかった。兵庫県や全国では、全業種で前期よりマイナス幅が小さくなっている。

図表1. 業種別の売上高DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	5	20	29	13.8	17.2	69.0	▲ 55.2	▲44.0	▲49.0
1. 製造業	1	1	6	8	12.5	12.5	75.0	▲ 62.5	▲51.2	▲54.6
2. 建設業	1	2	6	9	11.1	22.2	66.7	▲ 55.6	▲25.9	▲24.1
3. 小売業	0	0	4	4	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲39.5	▲50.4
4. サービス業	2	2	4	8	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	▲49.4	▲55.4



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	9	17	30	13.3	30.0	56.7	▲ 43.3	▲ 62.1	▲ 60.2
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 69.6	▲ 64.9
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲ 63.0	▲ 33.6
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 47.9	▲ 61.2
4. サービス業	1	4	3	8	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 66.2	▲ 67.8

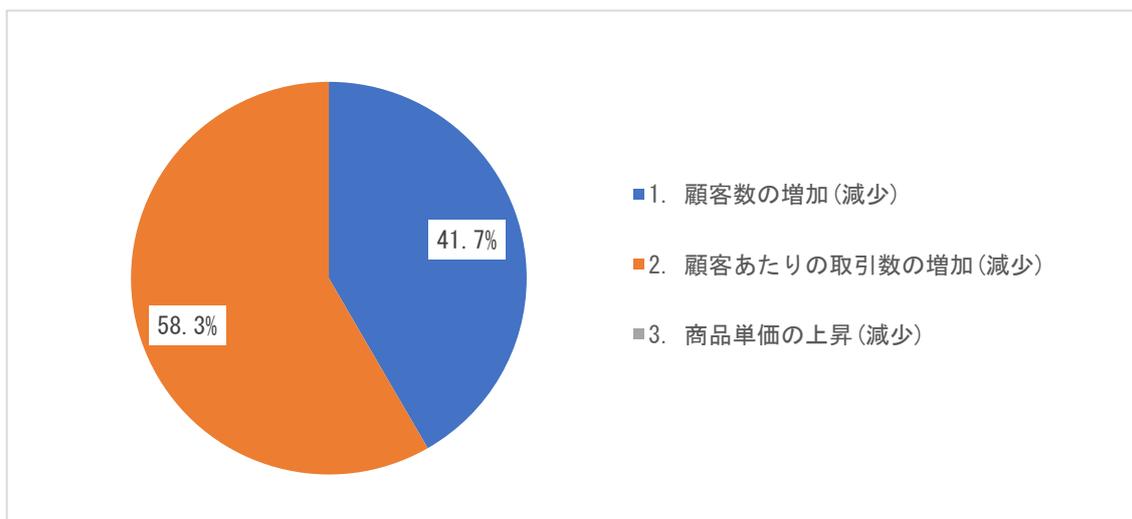
(2) 売上が増加、または減少した理由

売上が増減したと回答した事業所 24 所のうち、主な理由を「顧客あたりの取引数の増減」としたのは約 6 割、「顧客数の増減」としたのは約 4 割であった。前期は顧客数を理由にした事業所が多かったのに対し、今期は割合が逆転し取引数を理由とする事業所が多くなった。

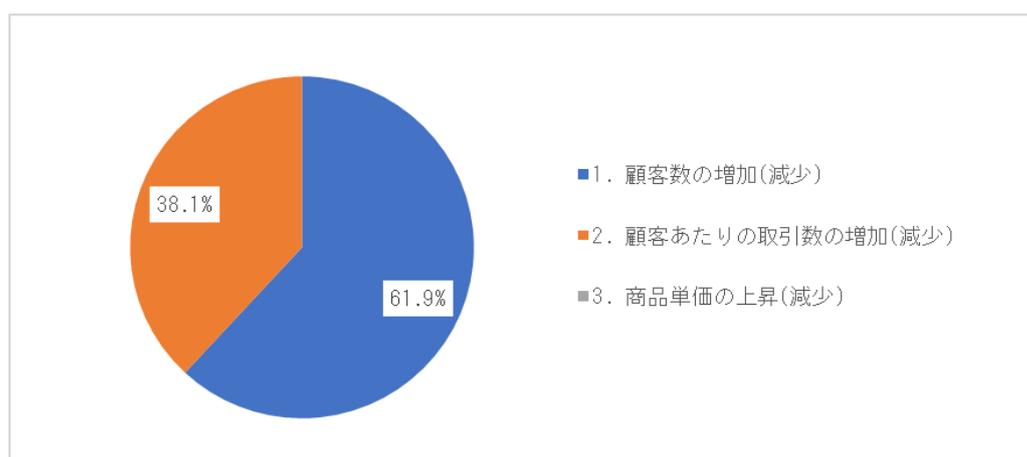
なお、売上が増加した事業所 3 所の増加理由は、すべて「顧客数の増加」であった。

図表 2. 売上高増減の理由

【今期調査結果】



【参考：前期調査結果】



2. 採算（経常利益）の状況

(1) 採算D I

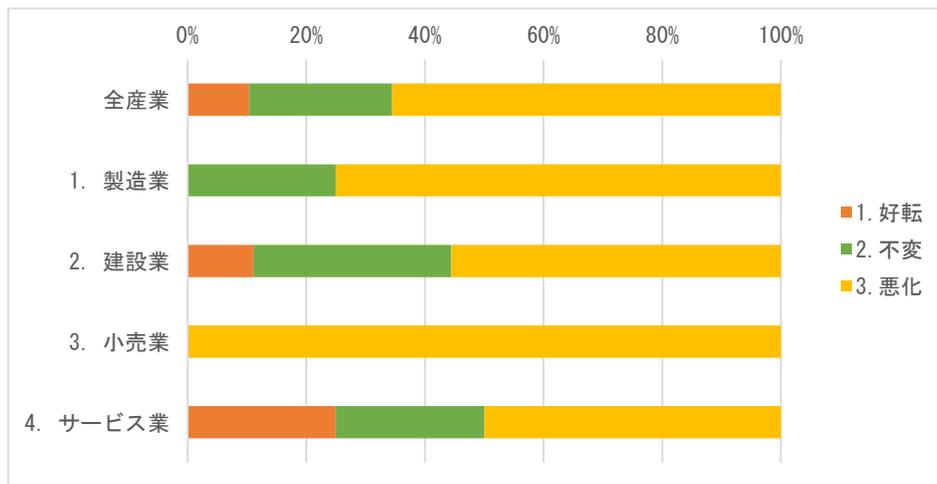
今期の全産業採算D Iは▲55.2と、前回の▲40.0より悪化した。業種別に見ると、製造業とサービス業で改善したものの、建設業と小売業で悪化している。

兵庫県や全国と比較すると、サービス業のみ市川町の方がマイナス幅が小さく、その他の3業種ではマイナス幅が大きい。兵庫県や全国では、全業種で前期よりマイナス幅が小さくなっている。

図表3 業種別の採算D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	7	19	29	10.3	24.1	65.5	▲ 55.2	▲40.9	▲43.0
1. 製造業	0	2	6	8	0.0	25.0	75.0	▲ 75.0	▲48.8	▲46.4
2. 建設業	1	3	5	9	11.1	33.3	55.6	▲ 44.4	▲40.7	▲24.7
3. 小売業	0	0	4	4	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲33.4	▲43.7
4. サービス業	2	2	4	8	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	▲41.0	▲48.1



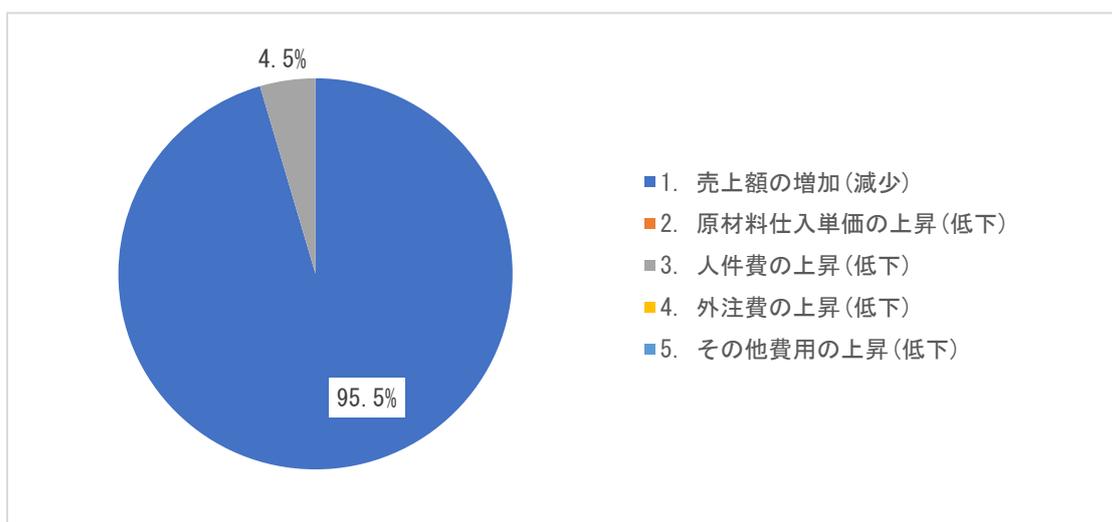
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	4	10	16	30	13.3	33.3	53.3	▲ 40.0	▲ 55.0	▲ 52.2
1. 製造業	0	1	7	8	0.0	12.5	87.5	▲ 87.5	▲ 69.6	▲ 58.5
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲ 48.2	▲ 29.0
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 51.6
4. サービス業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲ 37.5	▲ 52.6	▲ 59.0

(2) 採算が好転、または悪化した理由

採算が好転、または悪化したと回答した事業所 22 所のうち、ほとんどがその理由を「売上高の増減」にあるとした。採算が好転した事業所は、全事業所が売上高の増加が理由であった。

図表 4. 採算好転悪化の理由



3. 資金繰りの状況

(1) 資金繰りDI

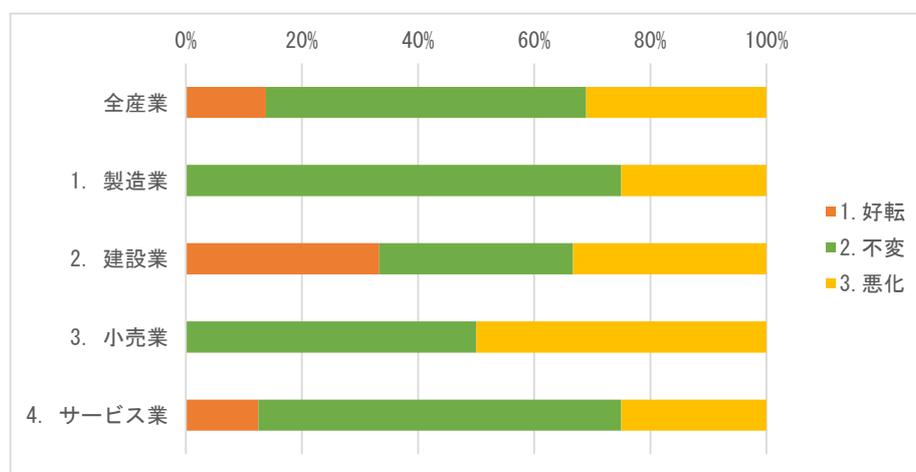
今期の全産業資金繰りDIは▲17.2と前回より改善したものの、引き続きマイナス値となった。業種別に見ると、小売業は悪化したが製造業と建設業は改善した。

兵庫県と比較すると、製造業と小売業では市川町の方がマイナス幅が大きい。全国と比較すると、小売業のみ市川町の方がマイナス幅が大きい。

図表5. 業種別の資金繰りDI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	4	16	9	29	13.8	55.2	31.0	▲17.2	▲19.2	▲26.6
1. 製造業	0	6	2	8	0.0	75.0	25.0	▲25.0	▲22.3	▲28.7
2. 建設業	3	3	3	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲25.9	▲11.7
3. 小売業	0	2	2	4	0.0	50.0	50.0	▲50.0	▲8.4	▲26.1
4. サービス業	1	5	2	8	12.5	62.5	25.0	▲12.5	▲22.3	▲32.0



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	16	11	30	10.0	53.3	36.7	▲26.7	▲30.9	▲34.6
1. 製造業	0	3	5	8	0.0	37.5	62.5	▲62.5	▲39.1	▲38.5
2. 建設業	2	4	3	9	22.2	44.4	33.3	▲11.1	▲40.7	▲15.7
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲20.0	▲23.0	▲34.7
4. サービス業	1	5	2	8	12.5	62.5	25.0	▲12.5	▲27.4	▲40.4

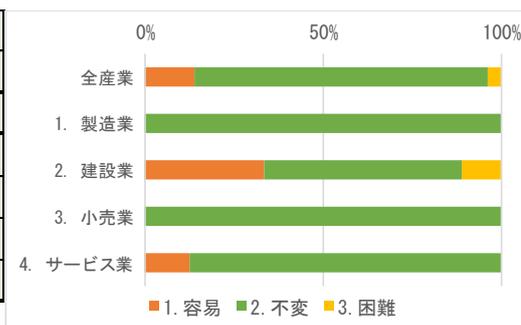
(2) 取引先からの資金回収

今期の全産業資金回収DIは10.3で、前期とほぼ同じ水準であった。回収困難とする事業所数が減っている。

図表6. 業種別の資金回収DIの状況

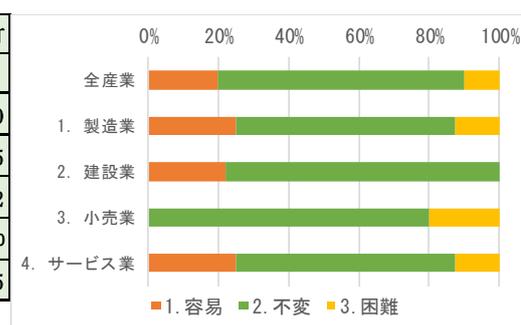
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	4	24	1	29	13.8	82.8	3.4	10.3
1. 製造業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0
2. 建設業	3	5	1	9	33.3	55.6	11.1	22.2
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	6	21	3	30	20.0	70.0	10.0	10.0
1. 製造業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2
3. 小売業	0	4	1	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0
4. サービス業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5



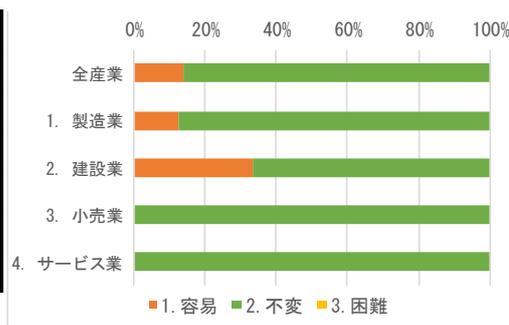
(3) 借入の容易さ

今期の全産業借入の容易さDIは13.8で、前期の29.6より下がった。ただし、「不変」とする事業所が増えており、「困難」とする事業所は0となった。

図表7. 業種別の借入DIの状況

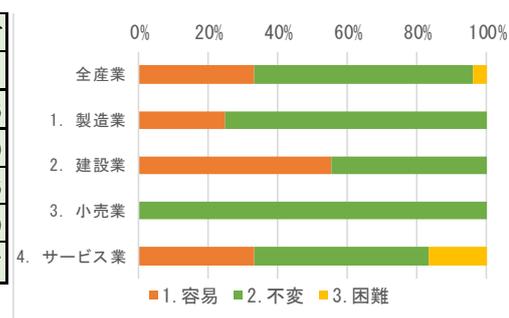
【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	4	25	0	29	13.8	86.2	0.0	13.8
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5
2. 建設業	3	6	0	9	33.3	66.7	0.0	33.3
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	9	17	1	27	33.3	63.0	3.7	29.6
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0
2. 建設業	5	4	0	9	55.6	44.4	0.0	55.6
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	2	3	1	6	33.3	50.0	16.7	16.7



4. 人材の状況

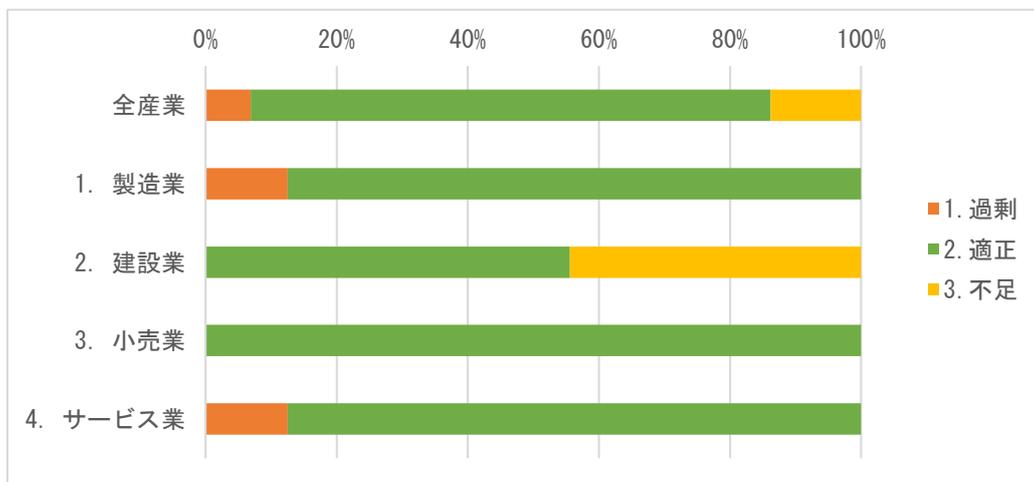
(1) 人材D I

今期の全産業人材D Iは▲6.9と前期の3.3からマイナスに転じ、やや不足となった。建設業で不足傾向が強い。製造業とサービス業では過剰傾向が続いている。兵庫県や全国では、全ての業種で不足傾向となっている。

図表8. 業種別人材D I

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	2	23	4	29	6.9	79.3	13.8	▲ 6.9	▲17.4	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲6.7	▲6.8
2. 建設業	0	5	4	9	0.0	55.6	44.4	▲ 44.4	▲36.0	▲31.3
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲9.8	▲8.7
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲22.4	▲11.2



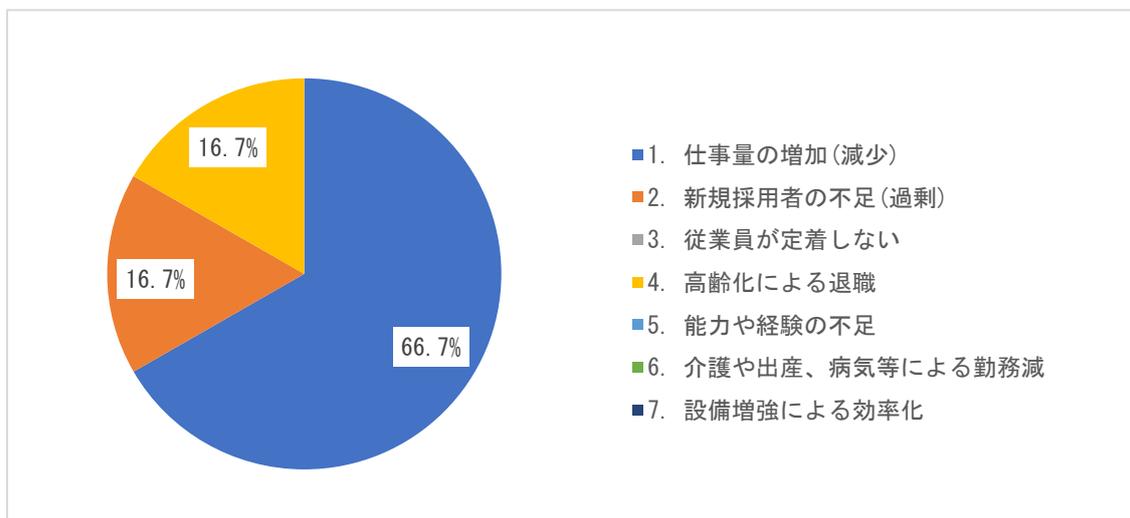
【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	4	23	3	30	13.3	76.7	10.0	3.3	▲ 8.6	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	8.7	▲ 2.1
2. 建設業	0	7	2	9	0.0	77.8	22.2	▲ 22.2	▲ 16.0	▲ 26.8
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.1	▲ 6.9
4. サービス業	2	5	1	8	25.0	62.5	12.5	12.5	▲ 17.2	▲ 7.8

(2) 人材が過剰又は不足の理由

人材に過不足があると回答した6所で、最も多かった理由は「仕事量の増減(66.7%)」であった。その他には、「新規採用者の過不足」「高齢化による退職」といった理由が挙げられた。

図表9. 人材過不足の理由



(3) 従業員数（含む臨時・パート）

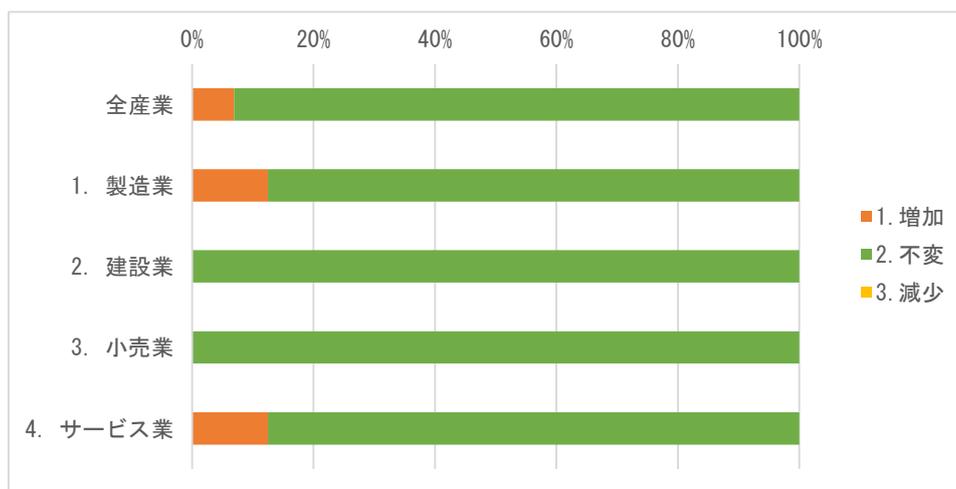
従業員数DIは、全業種でプラス値又はゼロとなっており、従業員数は不変、または増加傾向にある。

兵庫県や全国では、前期よりは改善しているものの、ほとんどの業種でマイナス値で減少傾向である。

図表10. 業種別の従業員数DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	0	29	6.9	93.1	0.0	6.9	▲3.9	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲6.7	▲11.2
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲7.7	▲6.9
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	5.0	▲2.9
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	▲6.0	▲8.5



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	25	0	29	13.8	86.2	0.0	13.8	▲11.5	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲11.1	▲11.5
2. 建設業	0	9	0	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲7.7	▲7.0
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲7.1	▲5.0
4. サービス業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲16.0	▲12.8

(4) 外部人材

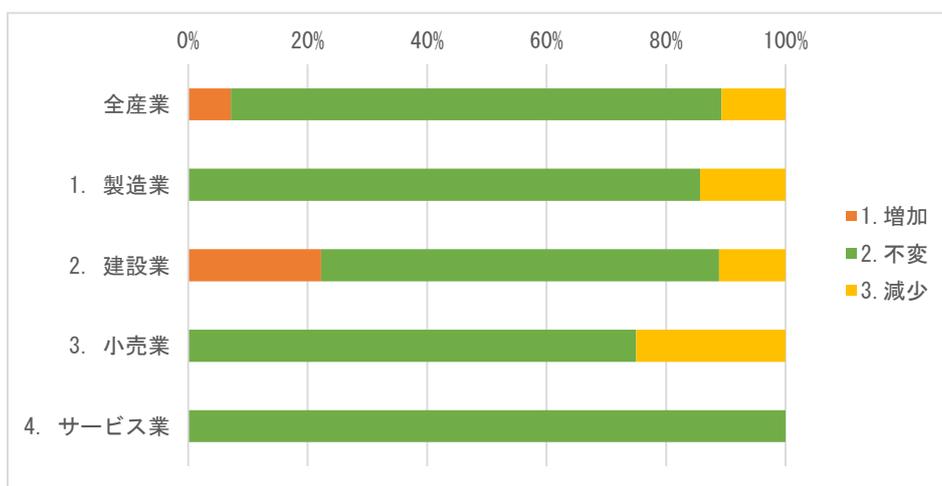
外部人材DIは、製造業と小売業では減少してマイナス値、建設業では増加してプラス値となった。サービス業は変化しなかった。

兵庫県や全国では前期より改善しているものの、ほとんどの業種でマイナス値で減少傾向である。

図表 1 1. 業種別の外部人材DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	23	3	28	7.1	82.1	10.7	▲ 3.6	▲ 5.2	—
1. 製造業	0	6	1	7	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	▲ 3.1	▲ 8.3
2. 建設業	2	6	1	9	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 17.4	▲ 2.0
3. 小売業	0	3	1	4	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	3.3	▲ 2.7
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 5.8	▲ 6.6



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	24	3	29	6.9	82.8	10.3	▲ 3.4	▲ 10.4	—
1. 製造業	0	7	1	8	0.0	87.5	12.5	▲ 12.5	▲ 10.0	▲ 11.7
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲ 28.0	▲ 5.5
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 7.1	▲ 4.2
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 3.9	▲ 8.9

5. 業況の状況

(1) 業況DI

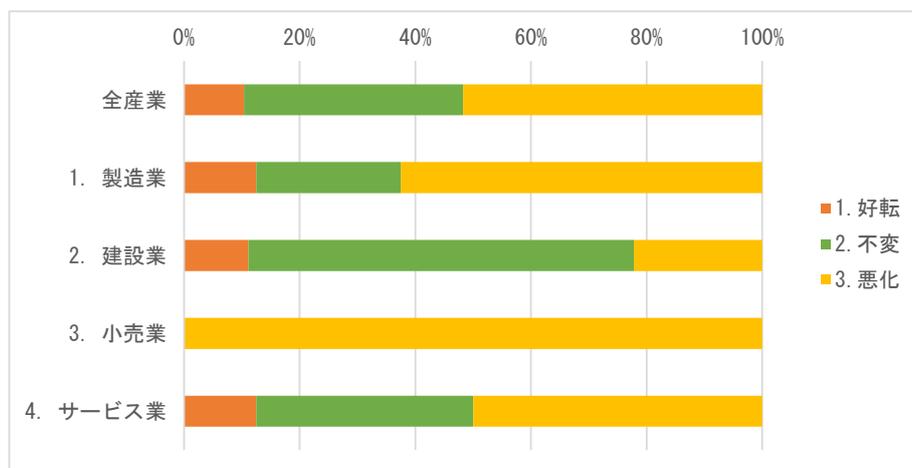
今期の全業種業況DIは▲41.4で、前期の▲40.0よりやや悪化した。製造業でマイナス幅が縮小したものの、他の3業種では悪化している。

兵庫県と比較すると、製造業、建設業、サービス業では市川町の方がマイナス幅が小さいものの、小売業ではマイナス幅が大きい。全国と比較しても、小売業のマイナス幅が大きいのが目立つ。

図表12. 業種別の業況DI

【今期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	11	15	29	10.3	37.9	51.7	▲41.4	▲43.1	—
1. 製造業	1	2	5	8	12.5	25.0	62.5	▲50.0	▲51.1	▲49.5
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲11.1	▲33.3	▲22.1
3. 小売業	0	0	4	4	0.0	0.0	100.0	▲100.0	▲31.3	▲45.7
4. サービス業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲37.5	▲49.3	▲49.0



【参考：前期調査結果】

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	3	12	15	30	10.0	40.0	50.0	▲40.0	▲55.5	—
1. 製造業	0	1	7	8	0.0	12.5	87.5	▲87.5	▲71.8	▲61.5
2. 建設業	2	5	2	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲44.5	▲29.0
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲60.0	▲45.7	▲56.1
4. サービス業	1	4	3	8	12.5	50.0	37.5	▲25.0	▲55.3	▲60.7

(2) 業況判断の背景 (自由回答)

依然として新型コロナウイルスによる影響を受けており、「イベントの減少や卸売りの減少が見られる」、「緊急事態宣言で顧客の動きがない」、「コロナ禍や緊急事態宣言で飲食業の業況は厳しい」などの回答があった。緊急事態宣言による影響も大きい。

一方、「GOTO キャンペーンと市川町宿泊割引の恩恵を受けて来客数が増えた」「最終利益は前年度とほぼ同じ」といった回答も見られた。

6. 設備投資の実施状況

(1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所は17.2%であった。今期は、兵庫県に比べて設備投資を実施した事業所は少ない。

図表13. 今期の設備投資実施状況

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	5	24	29	17.2	82.8	26.7	73.3	—	—
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	13.3	86.7	16.3	83.7
2. 建設業	4	5	9	44.4	55.6	18.5	81.5	19.5	80.5
3. 小売業	0	4	4	0.0	100.0	25.0	75.0	15.0	85.0
4. サービス業	0	8	8	0.0	100.0	31.5	68.5	19.6	80.4



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	10	20	30	33.3	66.7	24.9	75.1	—	—
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	15.2	84.8	15.0	85.0
2. 建設業	2	7	9	22.2	77.8	22.2	77.8	20.2	79.8
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	27.1	72.9	13.4	86.6
4. サービス業	4	4	8	50.0	50.0	28.4	71.6	17.1	82.9

(2) 来期の設備投資

来期に設備投資を予定している事業所は17.2%であった。前回は、設備投資を予定している事業所は兵庫県より多かったが、今回は兵庫県とほぼ同程度となった。

図表14. 来期の設備投資計画

【今期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	5	24	29	17.2	82.8	18.0	82.0	—	—
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	17.8	82.2	16.8	83.2
2. 建設業	2	7	9	22.2	77.8	29.6	70.4	15.9	84.1
3. 小売業	0	4	4	0.0	100.0	14.6	85.4	11.1	88.9
4. サービス業	2	6	8	25.0	75.0	20.5	79.5	15.2	84.8



【参考：前期調査結果】

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	8	22	30	26.7	73.3	21.0	79.0	—	—
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	15.2	84.8	17.1	82.9
2. 建設業	5	4	9	55.6	44.4	33.3	66.7	17.5	82.5
3. 小売業	0	5	5	0.0	100.0	27.1	72.9	13.3	86.7
4. サービス業	2	6	8	25.0	75.0	27.0	73.0	18.4	81.6

7. 最も優先すべき経営上の課題

今期に最も優先すべき経営上の課題は、「販路開拓・営業力の強化」が27.6%と多かった。次に、「人材の確保、人材育成」が13.8%、「ニーズ変化への対応」と「新商品・新サービスの開発」が各々6.9%と続く。

「その他（27.6%）」の内訳は「なし」が20.7%と多い。他の回答として「コロナ禍が続くことを想定した経営計画の策定」「コロナの終息」があった。

販路開拓や新商品開発など積極的な課題を挙げる事業所が多く、具体的行動に出るための支援が求められる。一方、課題がないとする事業所や外部環境の変化を待つ事業所も増えており、現状分析や問題点把握などの課題抽出に対する支援も必要だと考えられる。

図表15. 経営上の課題

